

仏壇の扉の開閉について



●Answer
 帰依 龍照(きえりゅうしょう)
 沖縄市・コザ山球陽寺住職

Q 先日、法事の席で、お仏壇の扉の開け閉めについての作法が、親戚の間で話題になりました。わが家には、お仏壇がないので、詳しいことが分かりません。沖縄の作法を教えてください。

(恩納村・Yさん)

A Yさんの親戚の方々はお仏壇をとっても大切にされているのです。沖縄のお仏壇には、おっしゃる通り、扉の開け閉めについて、いくつかの作法があります。

中国や本土の多くのお仏壇の扉のスタイルは、信仰する観音さまの名前から、観音開きと呼ばれます。これは、左右対称の2枚の扉を中央から両横に開く様式で、一般的に扉が二つ折りになるものです。

一方、沖縄のお仏壇の扉のスタイルの多くは、格子戸をスライドさせることから、引き戸と呼ばれます。これは4枚の扉を折半し、2枚の扉を中央から両横に引く様式です。沖縄のお仏壇では、この引き戸に開け閉めの作法がありますが、地域・家庭によって異なりますので、以下を参考にしてください。

【終日開口】

お仏壇の引き戸を、一日中、開けておく作法を、「終日開口(しゅうじつかいこう)」といいます。この作法では、4枚の扉を折半し、2枚の扉を中央から両横に引いた状態にしておきます。その意味は、扉を開けておくと、私たちの世界(生身)とご先祖さまの世界(後生)が繋がるといいます。

【終日撤去】

お仏壇の引き戸を、一日中、取り外した状態にする作法を、「終日撤去(しゅうじつてきよ)」といいます。終日開口と同じように、扉を開けておくと、私たちの世界とご先祖さまの世界とが真心でつながるといいます。扉を開けるだけでなく、撤去することで、より一層、広々とした世界とご先祖さまの世界とがつながるようになります。

【平日開口】

お仏壇の引き戸を、日中は開けておき、夜間に閉める作法を、「平日開口(ひんじつかいこう)」といいます。

ます。開けた状態は、「終日開口」と同様で、閉めた状態とは、その2枚の扉を両横から中央に戻すことです。「終日開口」「終日撤去」と同じ考え方にやる作法ですが、「夜間は、ご先祖さまも、私たちと同じようにお休みください」という思いやりの気持ちが込められています。

沖縄では、お仏壇の扉のことを、「グソーヌジョーミチ(後生の門道)」と考え、ご先祖さまの世界への入り口、あるいは私たちの世界との境界線として、敬う慣習があります。この考え方は、シンジュークニチ(四十九日)の翌日の五日日にお墓に向き、「ヒラチ

(平蓋)と呼ばれるお墓の扉を漆喰などで塗りふさぐ、「ハカヌトウドウミ(墓の戸止め)」の慣習にもつながると言い伝えられています。

お仏壇の扉の開け閉めの作法にも、大切な意味合いを持たせるのが沖縄の慣習です。片手でお仏壇の扉を開け閉めした際、「ウグワンス(仏壇)は、ティーウサ(合掌)みたいに、両手で開け閉めするんだよ」と先輩方からご指導いただけるのも、心から深くうなずける思いです。

Yさんの親戚の方々のご意見も、多分、このような内容だったのでしょね。沖縄つて、本当にありがたい作法がたくさんありますね。

ご先祖さまへの思いが、扉の開け閉めにも表れているんですね～



イラスト：帰依ひろ子